ガバメントAI 源内

ガバメントAI 源内における「国会答弁作成支援AIアプリ」のプロトタイプ版の提供開始について

2026年10月　デジタル庁 省庁業務サービスグループ 源内班

© Digital Agency, Government of Japan

デジタル庁
Digital Agency

国会答弁作成支援AIアプリの概要①

【国会対応業務における課題】
- 国会答弁の作成は、限られた時間の中で、高い正確性や一貫性が求められる、**職員の業務負担が大きい業務**の一つ
- 職員は、質問内容の確認から、過去答弁や根拠資料の検索・分析、答弁案作成に至るまで、多岐にわたる作業を短期間で行う必要
- 社会課題の複雑化に伴い、政策の背景や経緯の把握、追加質問への対応など、検討すべき事項が増加
- このため、質問の趣旨を的確に捉え、分かりやすく的確な答弁内容を十分に検討するための時間を確保することが課題

国会答弁作成支援AIアプリ（答弁支援AI）の開発（2026年4月～）
→開発実証事業はデジタル庁からNTTドコモビジネス株式会社に委託
→生成AIによる情報の検索・整理、答弁案の生成、内容の検証支援等を通じて、国会答弁作成業務の効率化と質の向上を目指す

- 開発に当たっては、16省庁から公募した実務経験豊富な職員102名が評価者として参画
- 画面構成や操作性、必要な機能等について幅広く意見を収集するとともに、改善提案の一部は機能改修に反映
- 評価者にプロトタイプを試してもらった結果、アンケート回答者の約8割が「答弁支援AIを利用したい」と回答

今回
ガバメントAI 源内において、答弁支援AIのプロトタイプ版を約18万人の政府職員に提供（10月30日～）

- 本システムは職員の業務を補助するためのものであり、**職員の判断をAIに委ねるものではない。**
  - 政策の解釈や判断、政府としての見解の整理、答弁内容の確定等は、従来どおり、関係職員が責任をもって行う。
  - 担当職員及び関係部局が十分に答弁案を精査・調整した上で、大臣等の答弁者が責任をもって答弁を行う。
  - 事実と異なる内容や根拠のない情報を、もっともらしく生成する「ハルシネーション」等のリスクがある。このため、事実関係の正確性、過去の答弁や政府方針との整合性、表現の適切性等を十分に確認しながら本システムを使用する。

試用した職員からのフィードバックを踏まえ、更に機能改修

2027年1月～　常会において本格提供を開始（予定）

© Digital Agency, Government of Japan

国会答弁作成支援AIアプリの概要②

国会答弁の作成作業を、答弁支援AIがひと続きで支援

アプリが支援する作業範囲
政府職員が引き続き担う作業範囲

標準的な答弁作成の流れ

- 質問を受け取る（質問通告）
- 質問の趣旨・意図を把握する
- 質問者に意図を確かめる（質問レク）
- 根拠となる資料を確認する
- 答弁の原案をつくる
- 答弁案を見直し、修正
- 関係府省との答弁案の調整、府省庁内における答弁案決定

答弁支援AIが提供する機能

質問の論点を整理し、ポイントをつかむ
質問分析機能 ― 質問の要点や、求められている内容を整理

確認すべき点を整理し、論点を明確化する
問取りアシスト機能 ― 質問の趣旨や背景を確認する事項（問取り）を整理

大量の参考資料の検索・分析・整理を支援する
資料ライブラリ・参照資料設定機能 ― 過去答弁、想定問答集等の資料を登録してAIが処理

答弁の原案をつくる
答弁案作成・編集機能 ― 原案の作成と利用者による手直し、複数パターンの原案作成

原案をチェックする
更問生成・矛盾チェック機能
追加で聞かれそうな質問（更問）の提案、参考資料や過去答弁との整合性確認

文書にまとめる
Word出力機能
Word形式のファイルとして出力、職員が直接的な編集も可能

- 本システムは職員の国会対応業務を補助するためのものであり、職員の判断をAIに委ねるものではない。
- 源内が提供する「国会答弁を調査・分析」「チャット（対話型AI）」「国会審議中継の速記データ検索」「法制度に関する調査」等のアプリを使用して国会答弁の作成作業を行うことも可能。

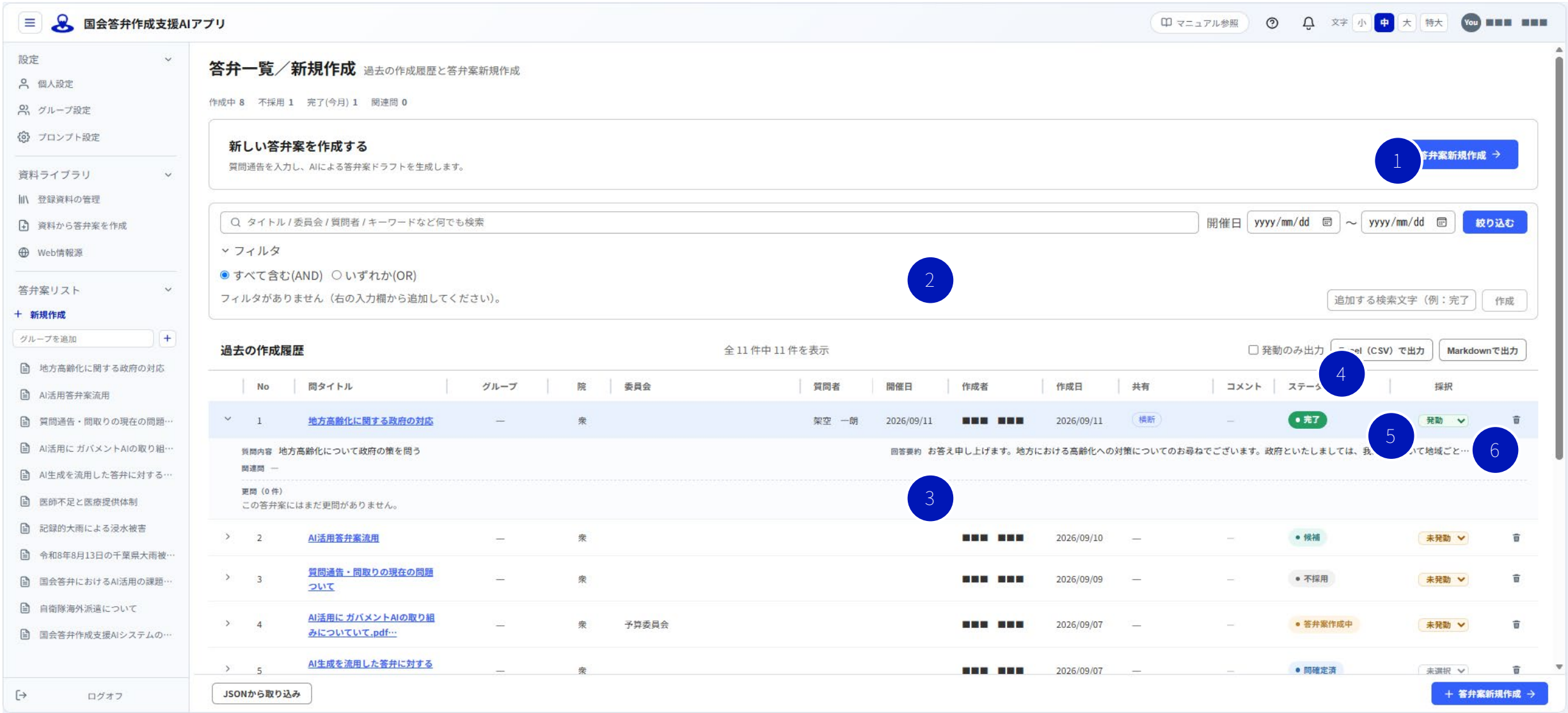
国会答弁作成支援AI開発におけるプロトタイプ評価ワークショップ（2026年7月）

- **開発に当たっては、16省庁から公募した実務経験豊富な職員102名が評価者として参画**
- **国会答弁作成支援AIのプロトタイプ（試作機）に関するワークショップをデジタル庁で開催**
  - 7月14日・15日・16日の3日間（一回3時間）
  - 15省庁の若手職員39名が参加
- **画面構成・操作感に関するフィードバックを得つつ、政府職員が必要とする機能について活発に意見交換**

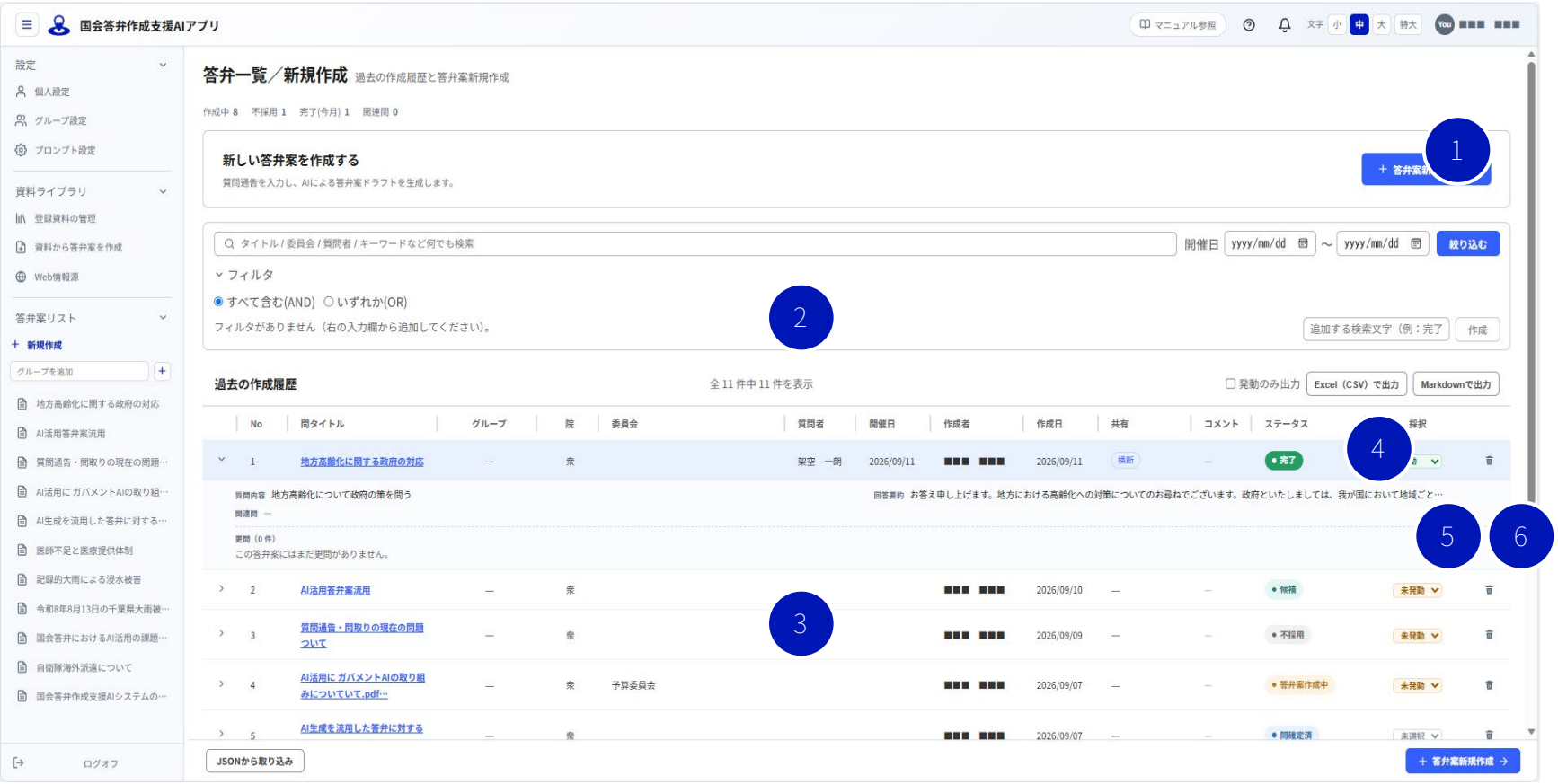
「国会答弁作成支援AIアプリ」
画面構成イメージ

画面　―　答弁案一覧管理の画面構成

答弁案作成に関する画面構成を説明する



画面　―　答弁案一覧管理の画面構成



1 **答弁案新規作成**

答弁案の作成画面に遷移する

2 **答弁案作成履歴の検索**

過去の作成履歴の検索およびフィルタを行う
※開催日、複数文字列、AND/OR検索が可能

3 **過去の作成履歴**

過去に作成した答弁案および共有された答弁案の一覧
※一覧の答弁案をクリックすることで質問、更問、答弁内容の要約を表示

4 **ファイル出力**

過去の作成履歴にある答弁案のサマリー情報をCSV形式またはMarkdown形式で出力する
※「発動のみ出力」のチェックで出力情報のフィルタが可能

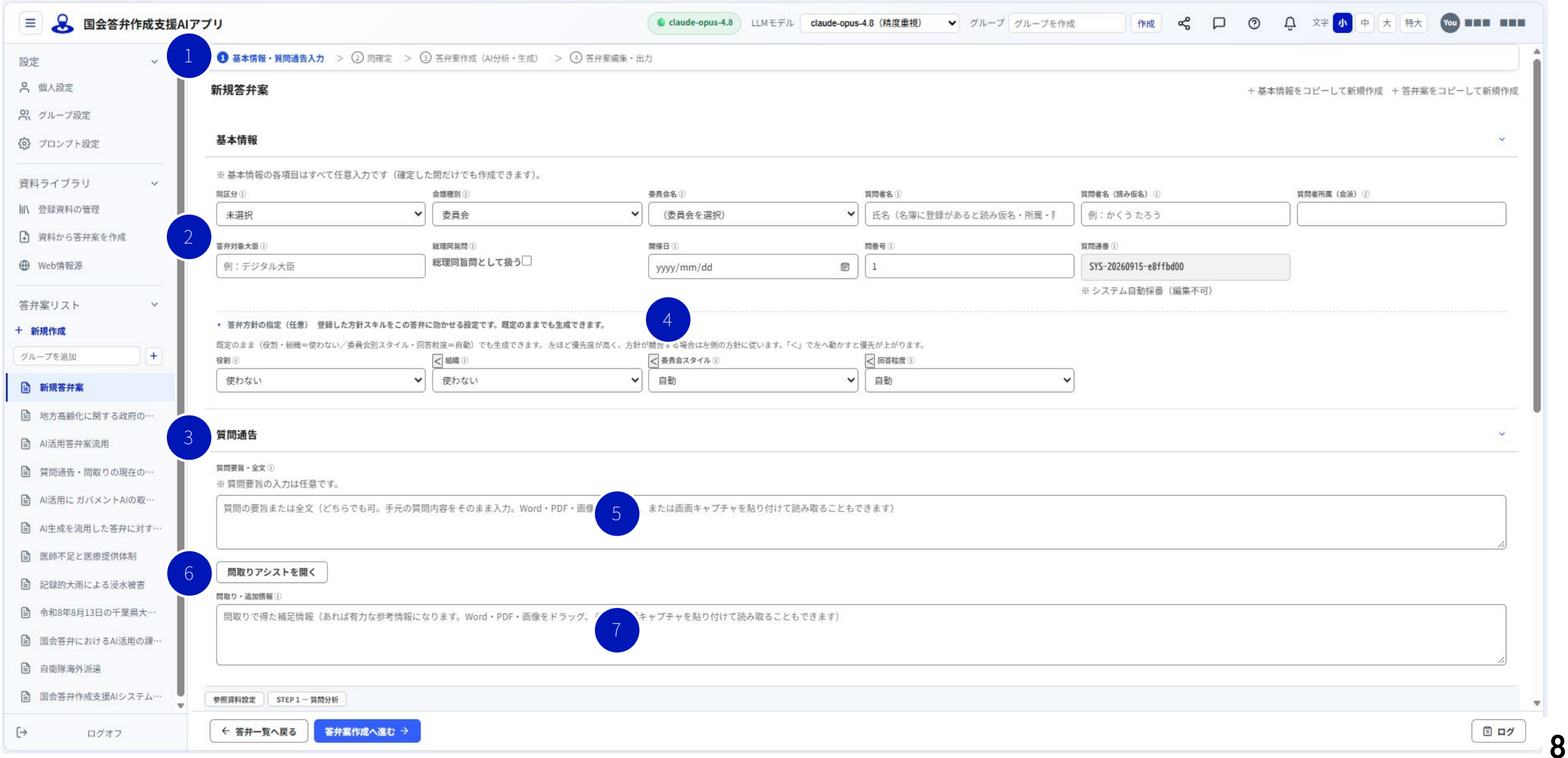
5 **採択**

答弁案の発動/未発動を選択する

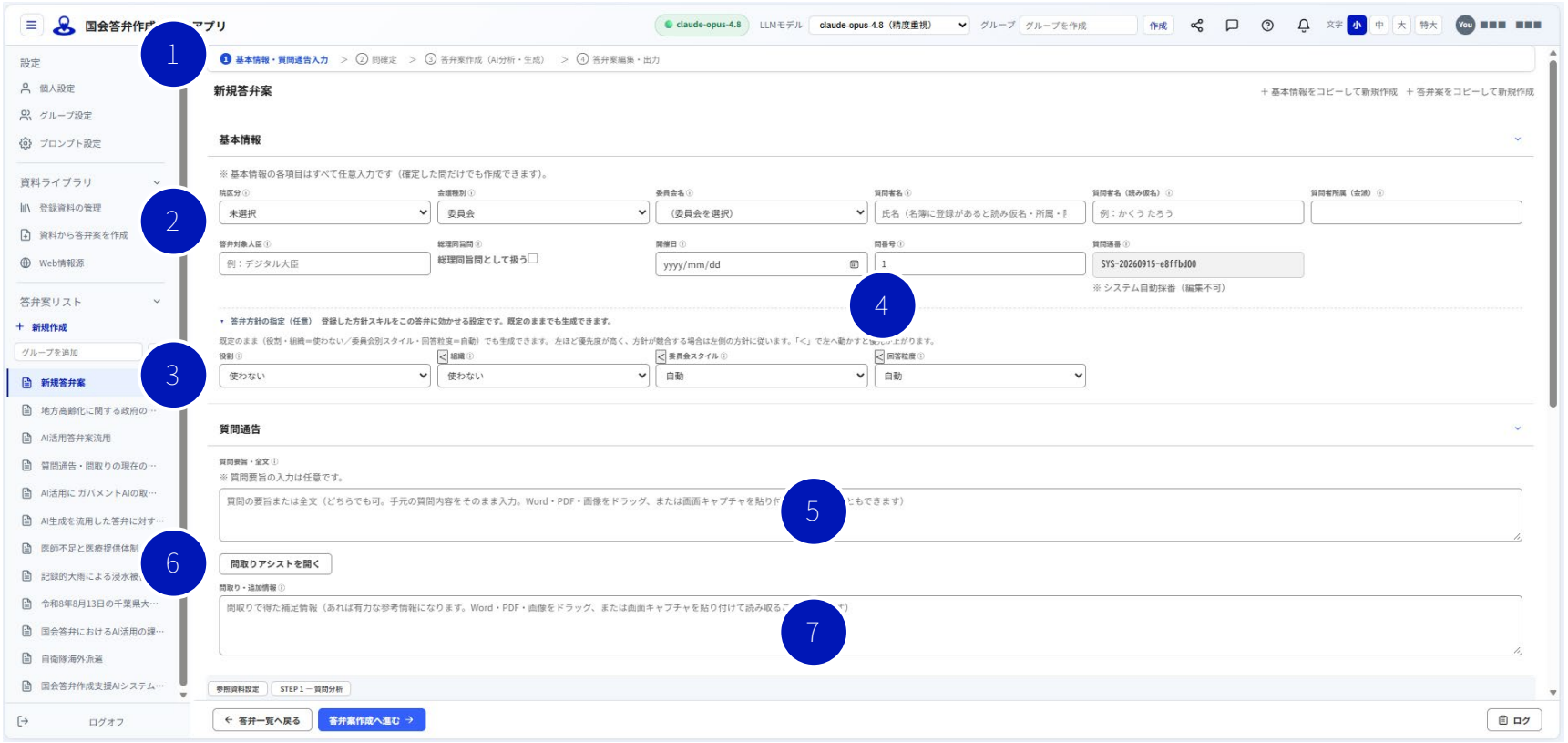
6 **答弁案の削除**

ゴミ箱マークをクリックすることで答弁案を破棄する

画面　―　答弁案一覧管理の画面構成



画面　―　答弁案一覧管理の画面構成



1 進捗ビュー

答弁案作成状況に応じた進捗を表示

2 基本情報

議事機関情報、質問者情報、答弁者情報を入力する

3 答弁方針の指定

答弁案の作成に適用するスタイルを役職、組織、委員会、回答粒度ごとに指定する
※プロンプト設定のメニューにて答弁方針の登録が無い場合は非表示

4 答弁方針の指定

「<」ボタンをクリックすることで答弁方針の優先度を変更する
※左側が優先度が高くなるため、答弁方針が競合する場合は優先度が高い答弁方針が採用される

5 質問要旨・全文

質問要旨の内容を記載する

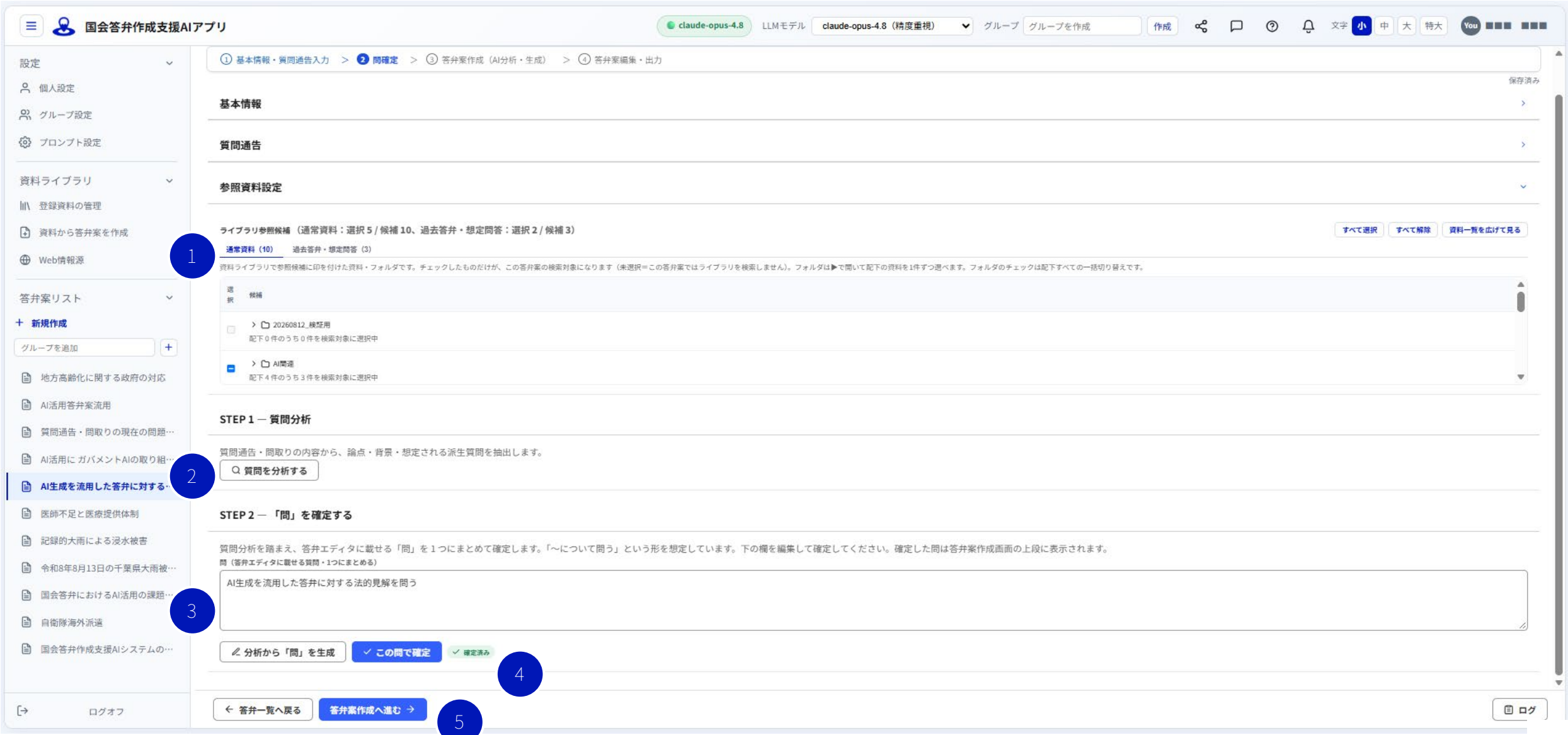
6 「問取りアシストを実行」ボタン

質問要旨・全文から問取りの確認事項を分析する

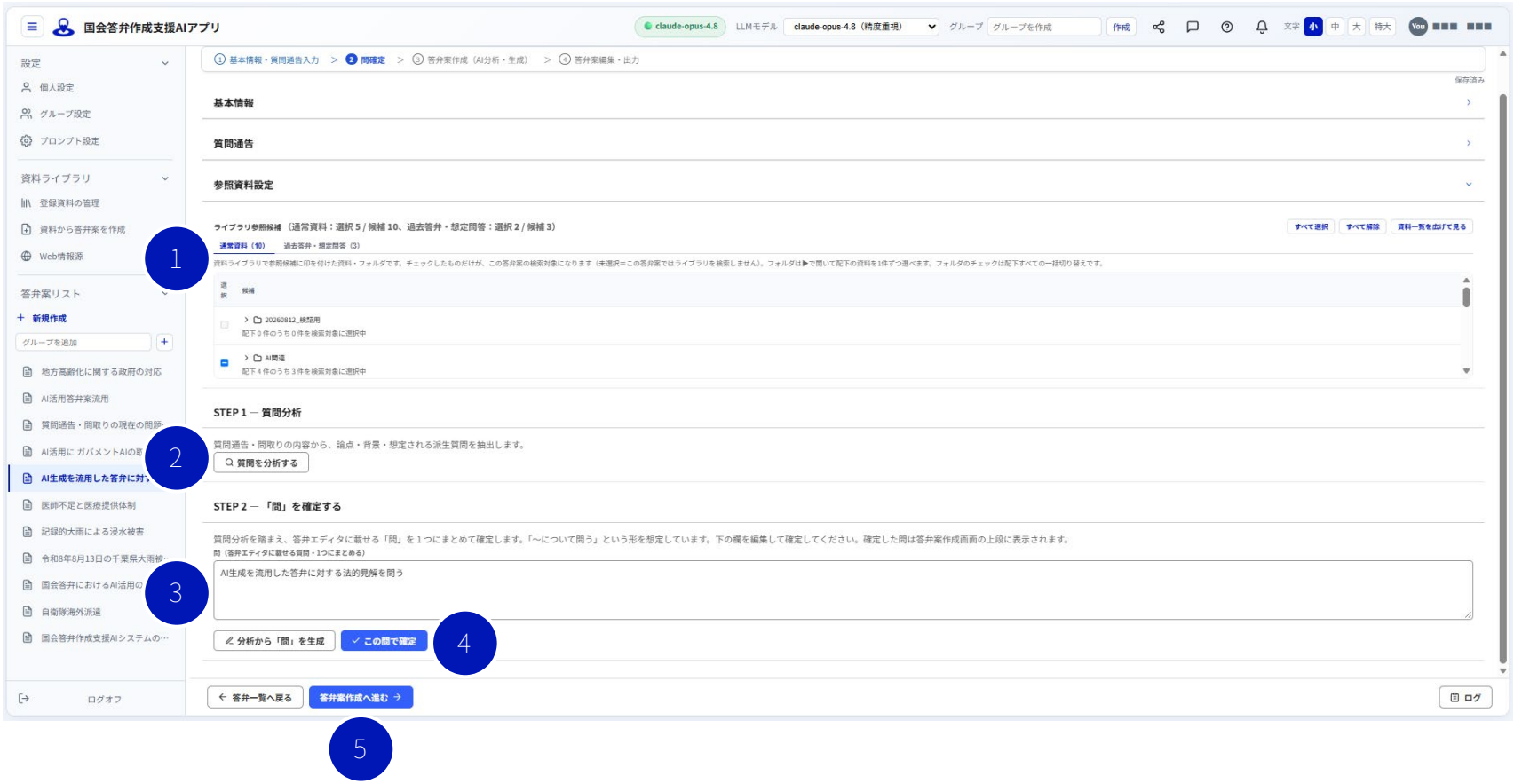
7 問取り・追加情報

問取り内容を記載する

画面 ― 答弁案一覧管理の画面構成



画面　―　答弁案一覧管理の画面構成



1　参照資料設定

答弁案作成の参照候補にする対象の「選択」にチェックを行う
※参照候補は登録資料の管理に登録され、候補にチェックされた対象のみ表示される
※登録資料の管理機能を参照

2　「質問を分析する」ボタン

質問通告の質問要旨・全文と問取り・追加情報から質問を分析する

3　問を確定

答弁の問を入力する
※「分析から「問」を生成」ボタンで自動生成が可能

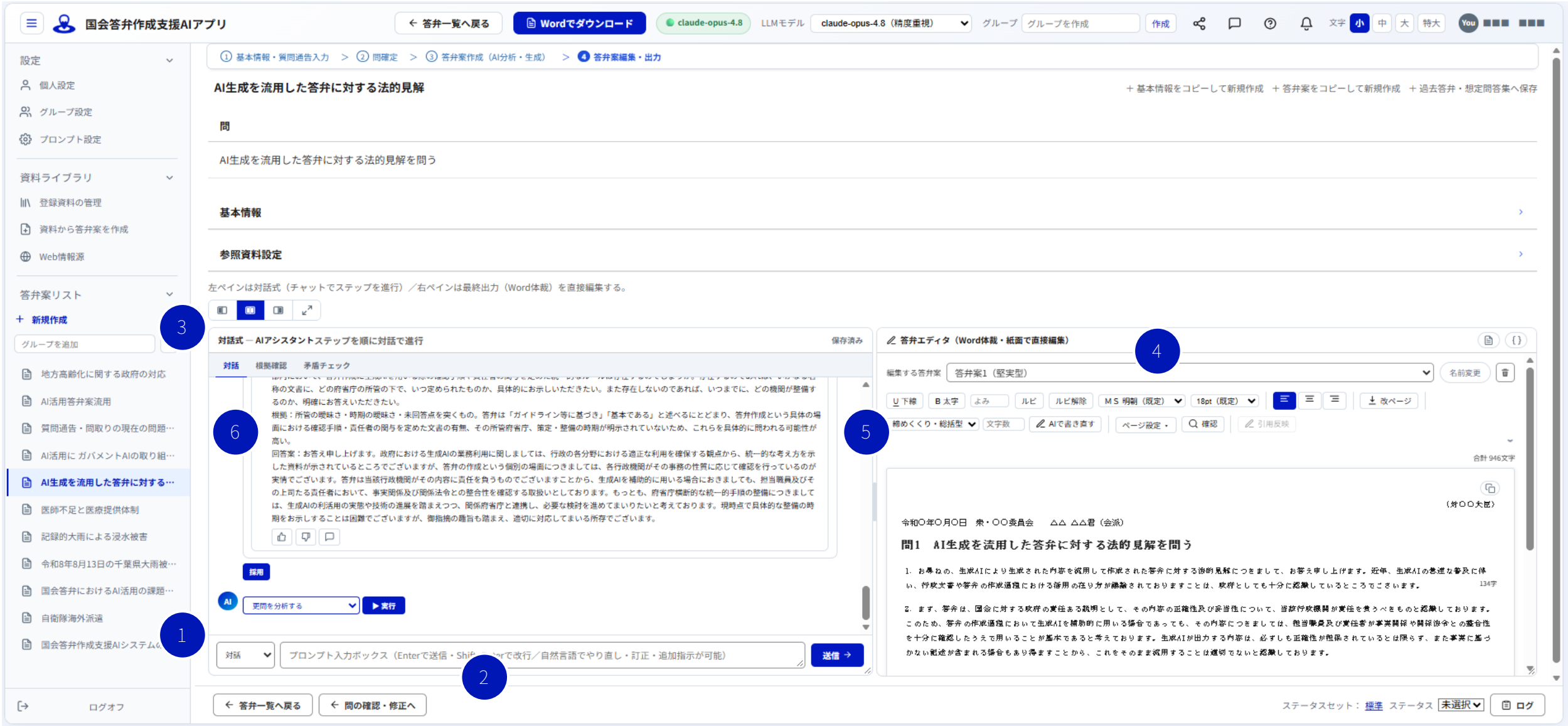
4　「この問で確定」ボタン

入力した問の内容を確定する

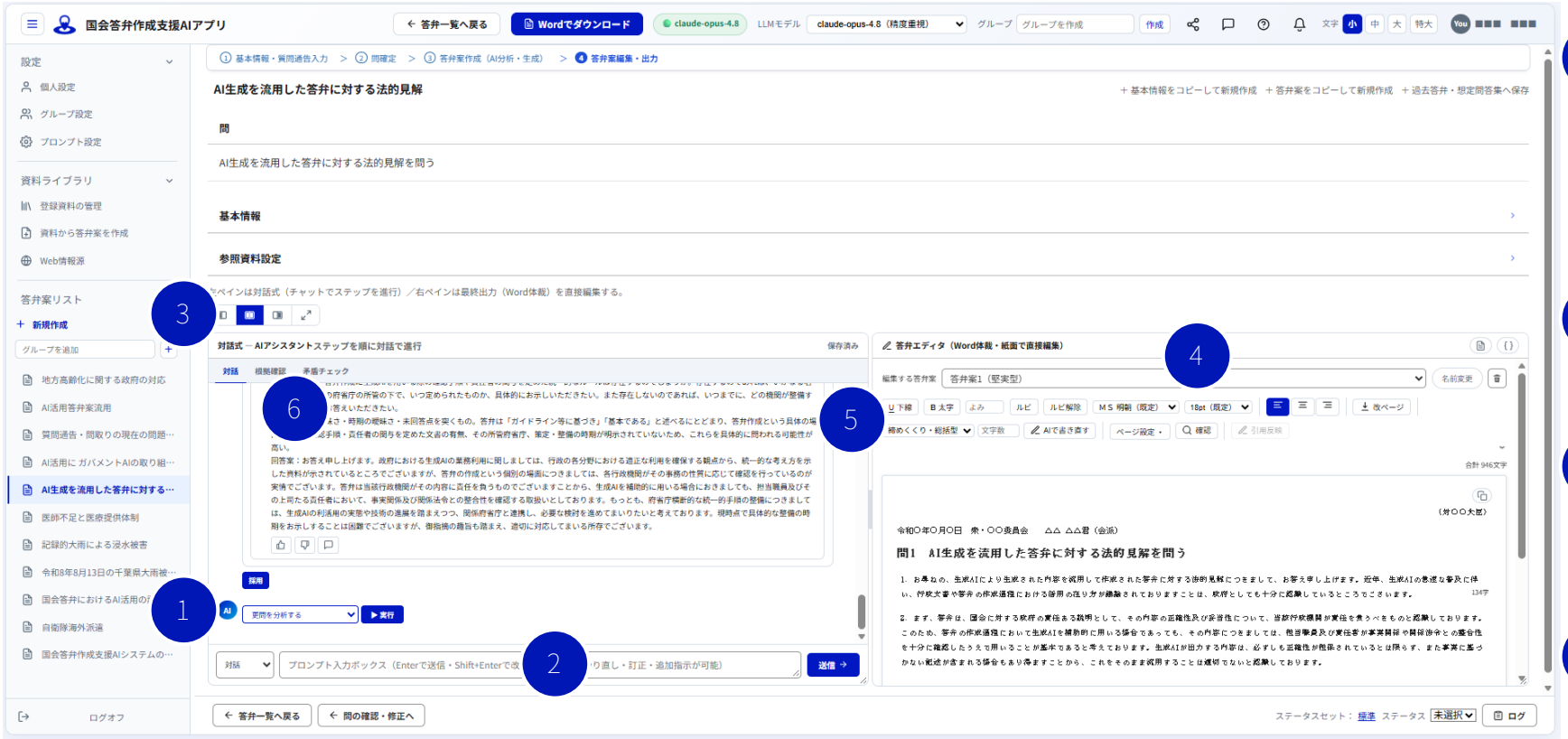
5　「答弁案作成へ進む」ボタン

答弁案作成画面へ遷移する

画面　―　答弁案一覧管理の画面構成



画面　―　答弁案一覧管理の画面構成



1 **AIアシスタントの操作ボタン**

プロンプト設定している操作ボタンを選択し実行すると、設定したプロンプトの指示をAIが実行する

2 **プロンプト入力ボックス**

自由な表現でAIに対して指示する
※入力ボックスの左のプルダウンで、対話（対話欄でAIへの指示）、エディタ（答弁エディタの答弁案をAIに編集）を切り替えることが可能

3 **画面表示の変更**

AIアシスタントの対話と答弁エディタの画面表示を切り替える

4 **編集する答弁案**

答弁エディタに表示・編集する答弁案を切り替える
「名前変更」ボタンで答弁案名を変更

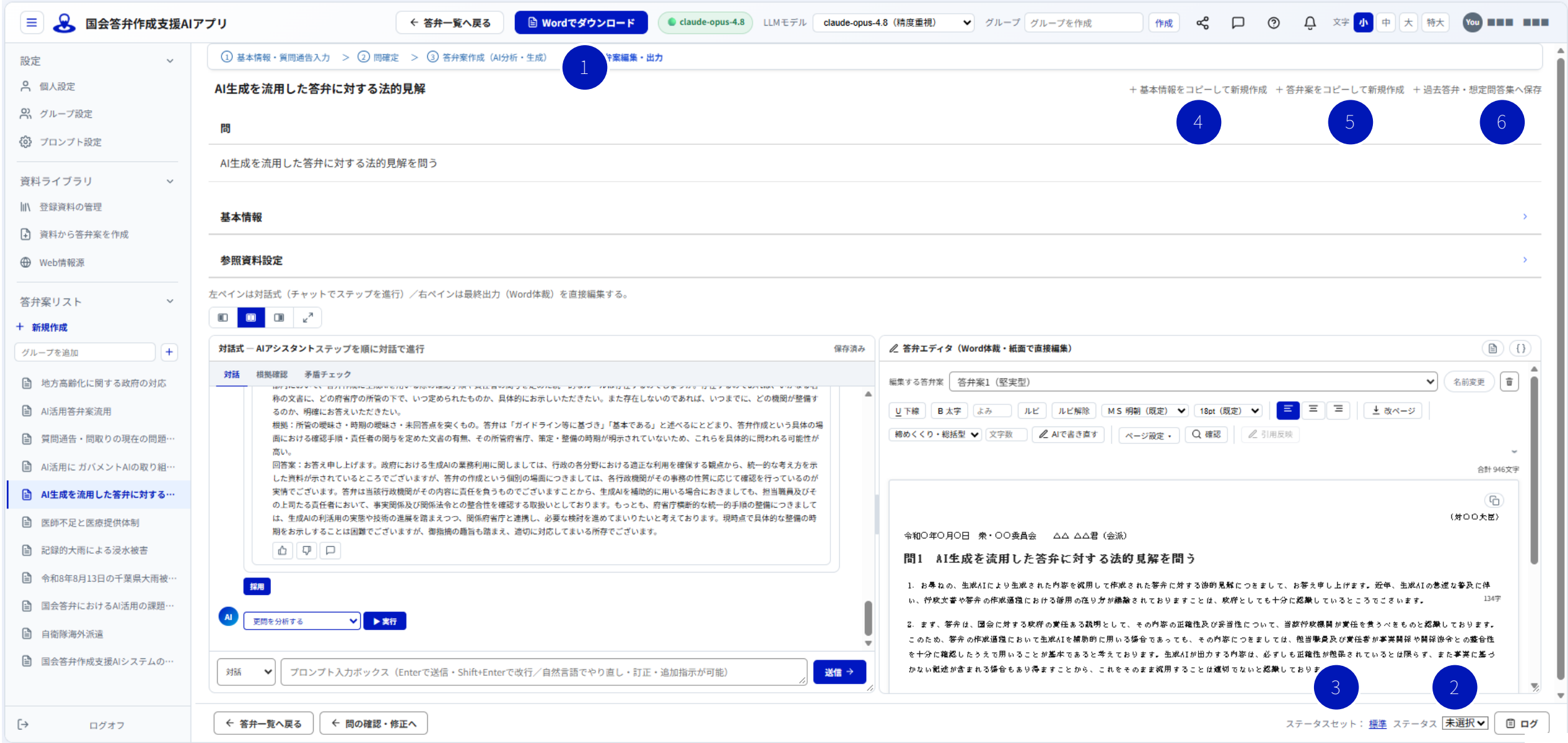
5 **答弁エディタの書式変更**

答弁案の内容を書式・ページ設定、文字数や答弁スタイルに応じた書き直しを行う

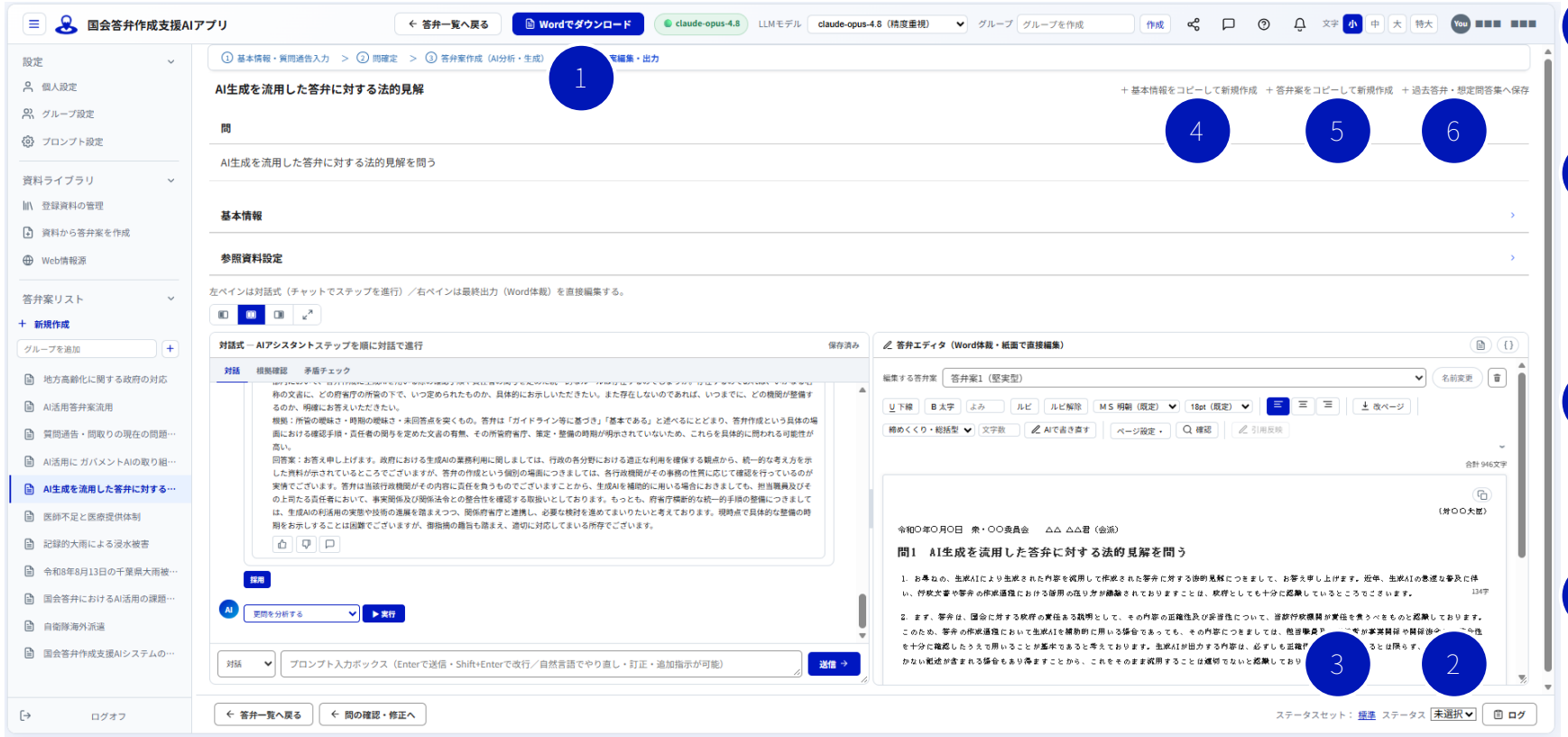
6 **根拠確認、矛盾チェック**

答弁案作成の根拠情報、更問予測、矛盾チェックを表示する

画面　―　答弁案一覧管理の画面構成



画面　―　答弁案一覧管理の画面構成



1 **答弁案の出力**

答弁案をWordファイルに出力する

2 **「ステータス」ボタン**

答弁案のステータスを切り替える

3 **ステータスセット**

ステータスセットを切り替える
※ 個人設定の答弁案ステータス管理機能を参照

4 **基本情報をコピーして新規作成**

答弁案に設定している基本情報を用いた新規作成の答弁案へ遷移する

5 **答弁案をコピーして新規作成**

答弁案に設定した質問通告や答弁内容やAIとのやり取りなどを用いた新規作成の答弁案へ遷移する

6 **過去答弁・想定問答集へ保存**

答弁案を参照資料として、登録資料の管理へ保存する

デジタル庁

Digital Agency

© Digital Agency, Government of Japan